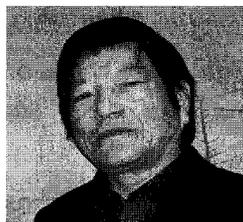


日本色彩学会誌

JOURNAL OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME33 NUMBER 1 2009



巻頭言 白秋の号は陰陽道からか、通説と誤解

関西支部長 須田 勝仁

高松塚古墳で有名になった四神(玄武・青龍・朱雀・白虎)も、最近では漫画等色々なところに登場するので、名前ぐらいは知っている方も多いと思われるが、四神が陰陽道に基づいていることはあまり知られていない。その陰陽道では、東西南北に四季や色などのいくつかの要素を割り当てている。たとえば東方は、季節は春で色は青色である。春と青とが合わさって青春という言葉が出来上がった。西方は、季節は秋で色は白である。組み合わせると白秋となる。この白秋という組み合わせは、青春と比べれば一般化していない。しかし歌の好きな人ならば誰もが北原白秋を思い浮かべられるのではなからうか。

その北原白秋の号「白秋」は、かなり専門的になるが、色彩文化の一項目である陰陽道との関連で取り上げられることが多い。多分その中の説明は、陰陽道の影響もしくは知識によって北原白秋になったのだ、とされていると思う。しかしこれは通説ではあるが完全な間違いである。そのことを示している記述が白秋自身の手による記事で残されている。少し引用して従来の説が間違っていることを説明しようと思う。間違っただけの通説がいつのまにか正しいこととして広く流布される例は、歴史上には多く存在するが、一つ一つでも正しい説を指し示していくことが、学問に携わる人間としては必要なことだと思う。

北原白秋著「白秋全集」(岩波書店) 第36巻428ページ所収 「雅号の由来」昭和14年7月2日 東京朝日新聞掲載(原文ママ)には、

白秋と云ふ私の雅号の由来は、単に白紙です。それは白紙を細かく切つて、その紙片の一つ一つに書いてあつた中の一つに秋といふ字があつた。それを引きあてたというだけの事でした。その秋に友人一同の規約に従つて同じ白といふ字を頭に冠したのです。

中学の三年頃のことでしたが文学少年の五六が回覧雑誌を出すといふので、皆が雅号を籤引きで取り決める事になり、さうした趣向で簡単に済ましてしまひました。その中でこの白秋だけが残つてゐる訳で、たしか白月といふのが今の倦鳥派の俳人松尾竹後君のことだつたと思ひます。

白秋といふ二字が姓の北原と、うつりがよく、聊か孤独的であります。寂しい中にも何か輝きがあるやうな気がして、その儘今日まで通して来てゐます。(尤も鳥渡した気紛れから、早稲田時代に射水とか薄愁とか、一、二度取り換へて見た事もありますが。(中略)

ところで「視力が薄くなつたから雅号にまで人杖の人篇をつけるといふのかね。」と私は笑つた。矢張り私は北原白秋でよろしかろう。

とあって、白秋の号は、友人たちとの遊び心の中から選ばれたという経緯がある。全く偶然から決定された産物である。ただ結果として、陰陽道の正当な組み合わせになっているために、逆に彼を大成させたのかも知れない。しかし姓名判断的には今回読んだ文中に、よい名前ではない、ということも出てくる。それでも白秋自身が「ハクシュウ」という響きに満足感を抱いていたためか、悪いといわれたこの号を死ぬまで使用し続けた。

確かに白秋の号を単なる偶然の産物だという説明ではおもしろくない。色彩学の文化的な説明として「おもしろく」するためにも、陰陽道との一致を述べたい。しかし残念ながらその説明は間違いだし、してはならないことだと思う。シャレで説明しているなら嘘も方便で問題はない。間違っていることを正しく認識した上で、このような考え方もあるというのであれば、陰陽道の白秋でよろしかろう。

(大阪大谷大学 短期大学部 教授)